

OMO SHAREHOUSE

中国のアフターデジタル化と共に共用ができる空間を計画する～



CHANG SIYU
建築設計計画 | 研究室

□コンセプト

中国は昔からみんなが集まって生活する習慣がある。例えば、北京の四合院ではキッチン、ペランダなどの空間が共用して交流ができるけど、現代の住宅ではほとんど高層ビルになって、コミュニケーションができない。そして、今中国ではオンラインとオフラインを融合して、ペイメント、飲食、移動などほとんどアプリで行われている。その二つの現状を考えてアフターデジタル化と共に共用ができる空間を提案する。

□プログラム

プランは若者に多く向けて、デザイナー、プログラマー、フリーターなどのSOHOが欲しい人も多くとて、敷地は都市の中心業務地区CBDの近く、交通が便利、周りにショッピングセンター、公園、川がある。そこにある、SHAREHOUSEに 着目した。敷地が住宅地の中で、1階から3階までは外の人に開放して、近くの住民も利用できる。



□デザイン

空間を作るのは、まずアプリでキューブを購入すること。一つのキューブは9㎡で、様々な種類があって、好きに選択して、自由に組み立てて独自のユニットを作成する。そして建築ではアルミニウム構造で、素材とパネルなどの建材が工場で生産して、壁を差し込んでパネル構成でキューブを組み立てます。最後はVRでDIYする空間が見えます。キューブの注文によって建築もドンドン上に増えて、形も様々な変化が出て来る。



